事例No.	2438
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	公益財団法人　吉野川紀の川源流物語

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・移住定住

事例種類	地域振興

事例内容・タイトル

つなぐ、つたえる、つづける　森から海へ、楢・和歌山の県境を越えた流域連携のしくみ

出典

平成28年度優良事例表彰一覧

総務大臣賞

「水源地の村」発！
つなぐ、つたえる、つづける　森から海へ、奈良・和歌山の県境を越えた流域連携のしくみ



森林環境教育へのニーズに応じた体験プログラムを提案・支援。大学を含む学校教育機関の利用は年間 70 ～ 80 件、4,000 人を超えている。

事例の概要



中流域を訪ねるツアーでの公益財団法人吉野川紀の川源流物語職員と村民のみなさん

川上村は、500 年の歴史を持つ吉野林業の中心地として栄えてきたが、林業の不振と２つのダムの建設により、人口流出が進み、昭和 40 年には 7,500 人を超えていた人口は平成 27 年国勢調査では約 1,300 人となった。

このような動向を見据え、平成６年に「水源地の村づくり」をスタートし、平成８年には『川上宣言』を発信し、源流域の自然を守り暮らしながら、人が健やかに暮らすため欠かせない水を流域に届けつづける決意をした。

公益財団法人吉野川紀の川源流物語は、川上村が「水源地の村づくり」を実行・推進するために設立され、広域的な視点で源流域の課題解決や流域全体の水環境保全に取組んでおり、専門性を持った人事異動に影響されない持続した活動を確保している。

村民参加の「流域学習会」等を実施することで、水源地の役割を再認識し、環境意識の向上と源流に住む誇りの醸成を図るとともに、水源地の森ツアーや参加体験型の調査研究により、流域・都市部の人々との環境保全の価値共有、理解者・行動者の増加につなげている。

評価のポイント

同法人は吉野川・紀の川の源流に位置する奈良県川上村が平成 14 年に設立した団体である。川上村が掲げる「水源地の村づくり」を担う法人として自然体験プログラムや村民参加の学習会など様々な環境事業に取り組んでおり、その拠点である「森と水の源流館」も運営している。水源地の森の見学ツアーは年間 40 ～ 50 件、参加者は 500 人を超す。

水源地からの情報発信にとどまらず、川上村が下流域の和歌山市と結ぶ水源地保護に関する協定に基づき、他の自治体や団体と連携して流域全体をつなぐ様々な事業に取り組んでいる点も高く評価できる。一連の活動は水源地で暮らす村民の誇りの醸成にも役立っている。

川上村は大滝ダムの建設でかつての中心部が水没したものの、原生林・約 740㌶を 10 億円を投じて購入し、「都市にはない豊かな暮らし」を掲げて村づくりに取り組んでいる。森や水との共生をうたった第３次総合計画「吉野川源流物語」を策定して以降だけでも 22 年の歴史がある。全国の水源地のなかでも専門人材を確保し、特質すべき活動を続けている地域といえる。

今回の表彰対象事業には直接的には入らないが、特に人口減少が激しい地区で最近、「川上村版・小さな拠点事業」と名付けて、移動販売車の運行や日用品の配送、出張診療所の開設などに乗り出した。村の基幹産業である林業の振興に向けて村や森林組合などが連携して「吉野かわかみ社中」と名付けた団体も昨年立ち上げた。

地域おこし協力隊も積極的に受け入れ、元隊員が農家民宿を立ち上げるなど新しい動きも広がっている。

最後に、村の持続可能性を左右する林業に関してひとこと付言したい。「吉野林業」と一般に呼ばれる長い歴史と優れた杉材を抱えながら、先行きの展望がまだ見通せない。美林を有する利点を生かし、従来の発想を超えた新たなビジネスモデルをぜひ、生み出してほしい。



自然体験プログラム「水源地の森ツアー」を実施。ツアー・視察等の受け入れは年間 40 ～ 50 件、500 人を超えている。



和歌山市との「水源地保護に関する協定」(平成 15 年) に基づき、「和歌山市民の森づくり」の協働事業を継続して実施している。



村民参加の流域学習会を開催。環境意識の向上と自らが暮らす水源地の役割を再認識し、源流に住むことへの誇りの醸成につなげている。

DATA　奈良県 川上村（かわかみむら）

団体名▶公益財団法人　吉野川紀の川源流物語
所在地▶〒639-3553　奈良県吉野郡川上村迫590-2
連絡先▶TEL:0746-52-0888　FAX:0746-52-0388
E-mail:morimizu@genryuu.or.jp　URL:http://www.genryuu.or.jp/

【交通のご案内】
自動車▶南阪奈道路　葛城ＩＣから約1時間
西名阪自動車道　郡山ＩＣから約1時間20分
名阪国道　針ＩＣから約1時間10分
和歌山市から約2時間
鉄　道▶近鉄電車特急を利用
大阪阿部野橋から大和上市まで約1時間10分
京都から大和上市まで約1時間35分
大和上市からコミュニティバスで約35分



▶国勢調査人口（単位：人）

昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
8,084	4,151	2,558	2,045	1,643

▶人口増減率（単位：%）

H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
-79.7	-60.4	-35.8	-19.7

▶高齢者・若年者比率（H22 年）（単位：%）

高齢者比率（65歳以上）	若年者比率（15歳以上30歳未満）
50.7	6.9